

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	重心児童デイ からふる・ぶらんしゅ (放課後等デイサービス)		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日 ~ 2026年 2月 21日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	2025年 12月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 29日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画に基づいた支援を徹底している。	全職員が揃うことが難しい状況に変わりはありませんが、週1回会議の時間を設定し担当が揃ってモニタリングを実施できるようにしました。個別支援計画等は各利用児のPC記録、個人ファイル、当日の掲示、記録入力システムからいつでも閲覧できるようにしてあり、常に支援計画を意識して支援を行うよう工夫しています。	モニタリング会議で幅広い職種の意見が集約されるようになったものの、利用児の変化についての考察には更なる職員の研鑽が必要です。家族支援や移行支援、地域支援にも全職員が意識して参画できるよう、児発管の指導や研修の継続が必要です。
2	関係機関や医療機関と連携し、利用児にかかわる医療情報を的確に収集し、支援に活かしている。	利用児の大半は医療的ケアや健康面での配慮が必要なため、医療情報を的確に収集して支援しています。定期的な指示書だけでなく、利用児に変化が生じた場合には都度書面の見直し等を行っています。疑問がある場合は主治医訪問や文書にて主治医や担当医に直接質問したり、相談支援専門員を通じて医療機関と連携を取っています。	経過や現状がすぐに取り出せるよう情報の整理と見える化が課題でしたが、まだまだ課題解決には至っていません。まずは指示書やマニュアル類をデータベース上に蓄積する作業に取り組んでいます。
3	利用児に楽しんでもいただけるようなプログラムを常に計画・実施している。	開所から10周年を迎え、好評・効果的だった活動が蓄積されてきました。その活動プログラムをデータベース化することで、ゼロベースで活動計画を考える必要がなくなり、経験が浅い職員も主体的に活動計画に参画しやすくなりました。検索した活動を、利用児の年齢や障害特性に応じてカスタマイズし、楽しめるよう工夫しています。	利用児の年齢や障害特性、集団形成の状態などによる活動プログラムの工夫には、感性だけでなく知識や経験が必要です。障害特性や発達に関する研修で知識を向上すると共に、他事業所等の見学を通して、工夫のヒントを収集していきたいと思えます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	毎日の支援の打ち合わせや振り返りが十分にできていない。	多機能型で運営しているため、職員の出勤時間にばらつきがあり、集合して打ち合わせや振り返りをする時間の確保が難しい現状です。グループウェアで情報を共有したり、集合できなくてもコミュニケーションを図るよう工夫しています。	今年度より週1回会議の時間を確保し、モニタリングや支援の打ち合わせができるようにしました。当日の打合せ時間の確保には課題が残っていますが、時間の工夫やシステムの工夫によりコミュニケーションを図り、支援の質向上に向けて努力していきます。
2	研修時間の確保が難しい。	以前は計画的に研修を実施できていましたが、令和6年度の報酬改定以降は義務化項目が増え、その対応に追われてしまい、研修時間の確保が難しくなっています。義務化研修以外の研修時間の確保が課題です。	無理のない形で研修が継続できるよう、研修計画を再構築していきます。また集合研修だけでなく動画視聴等の活用、外部研修参加と伝達講習など、様々な角度から幅広く職員が研修を受講できるシステムを整え、職員が日々研鑽し、資質を向上できるように取り組んでまいります。
3	事業所のスペースが手狭になってきている。	障がいの重度化により医療機器等を持参されるケースが増え、車椅子や座位保持装置が大型化しています。事業所が手狭になっており、車椅子類や医療機器を置くスペースの確保が難しくなっています。	事業所の移転や多機能型の分割を検討してきましたが、昨今の物価高や人材不足の影響もあり、なかなか難しいのが現実です。既存の事業所内で備品の整理整頓やレイアウトの工夫を行い、スペースを有効利用できるようにしていきます。